

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 41 回）議事概要（案）

日時：令和 3 年 5 月 14 日（金）15:00～17:10

場所：Web 会議 (Webex)

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）
赤羽専門委員（NTT 未来ねっと研究所）、岩田専門委員（(株)テレビ東京）、
浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、
下地専門委員（パナソニック(株)）、内藤専門委員（(株)KDDI 総合研究所）、
中村専門委員（日本放送協会）、西田専門委員（日本放送協会）、
廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、深澤専門委員（(株)TBS テレビ）、
三木専門委員（三菱電機(株)）、山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

説明員

大出氏（日本放送協会）、甲斐氏（日本テレビ放送網(株)）、熊丸氏（日本放送協会）、
佐藤氏（日本放送協会）、保谷氏（(株)フジテレビジョン）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課
荻原課長、福島技術企画官、服部補佐、植田係長、伊地知官

【配布資料一覧】

- | | |
|------------|---|
| 資料 放-41-1 | 放送業務委員会（第 40 回）議事概要（案） |
| 資料 放-41-2 | WP6A 会合報告書 |
| 資料 放-41-3 | WP6B 会合報告書 |
| 資料 放-41-4 | WP6C 会合報告書 |
| 資料 放-41-5 | SG6 会合報告書 |
| 資料 放-41-6 | <u>今後の検討の方向性</u> |
| 資料 放-41-7 | <u>郵便投票の承認可否（案）</u> |
| 資料 放-41-8 | 今後の検討スケジュール（案） |
| 資料 放-41-9 | 国際電気通信連合（ITU）2023 年世界無線通信会議（WRC-23）の議題一覧（第 146 回情報通信審議会情報通信技術分科会資料一部抜粋） |
| 資料 放-41-10 | 放送業務委員会構成員名簿 |
- （参考資料）

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-41-1「放送業務委員会（第40回）議事概要（案）」に基づき、第40回放送業務委員会の議事概要が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省HPに掲載することとなった。

3. ITU-R SG6 及び各 WP 会合の結果について

3.1. WP6A 会合の結果について

佐藤氏より、資料 放-41-2「WP6A 会合報告書」及び資料 放-41-6「今後の検討の方向性」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

中村専門委員 北京における5G MBMSの実験結果の具体的な内容についてお教えいただきたい。

：

佐藤氏： EBUからの提案はLTEベースの5G MBMS、すなわち3GPP release 16というシステムに基づくものだが、北京での実験は中国広電という通信事業者が実施した5G NR(New Radio) MBMSを使った伝送実験である。中国広電から、既存の放送システムとの比較について、5G NR MBMSを基地局に実装するコストは現行の地上放送とあまり変わりはなく、一斉配信の放送を考えると伝送効率は放送システムの方が有利であるが、モバイル端末へのリーチをターゲットとしているため、5G MBMSを使った方が良いという見解が述べられた。

西田専門委員： 本伝送実験はハイタワーを用いた実験である。

3.2. WP6B 会合の結果について

大出氏及び保谷氏より、資料 放-41-3「WP6B 会合報告書」及び資料 放-41-6「今後の検討の方向性」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

都竹主査： 今回入力した日本寄書は順調に処理されたのか。

保谷氏： 順調に審議が進んでいる。

大出氏： 音響関係についても順調に進んでいるが、新勧告草案 ITU-R BS. [NPAD-IF]については、以前の米国からの提案もあり、何とも言えない。符号化方式については、日本提案に対してコメントがあって修正を加えた。

3.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び甲斐氏より、資料 放-41-4「WP6C 会合報告書」及び資料 放-41-6「今後の検討の方向性」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

下地専門委員： エネルギー消費について、放送でも避けて通れない課題になってくると思うが、今後、日本としてどのように取り組んでいくのかお教えいただきたい。

甲 斐 氏： 今のところ検討は始まっていない。

西田専門委員： 国内の検討はできていない。フランスの提案は、放送チェーンの最初の部分の制作におけるコンテンツのフォーマットがエネルギー消費に関わってくると言う指摘が発端になっている。今後検討をする上で、まずは放送の各段階でどの程度エネルギー消費があるのか調査する必要がある。我が国としても、ご指摘のとおり検討は必要になってくると思う。

3.4. SG6 会合の結果について

熊丸氏より、資料 放-41-5「SG6 会合報告書」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。西田専門委員から次のとおり所見が述べられた。

西田専門委員： WRC-23 議題 1.5 の UHF 帯の議論は、WP6A 会合でのドラフティングの段階から SG6 会合まで大きくもめた事項であった。今後も、TG6/1 を含め WRC-23 までかなりの困難が予想される。WP6A では、WRC-23 議題の案件のほか 5G Broadcast の提案があり、今後も活発な議論が進められていくと思う。WP6B と WP6C では、音響関係は活発な議論があり出力文書も多いが、音響以外の議論は全体的に低調になりつつある。我が国から AI、AR/VR など新しい技術に関する寄与を行っているが、現時点ではレポートの作成にとどまっており、今後、どういうことを勧告化につなげていくかが課題である。今回、IEEE BTS から WP6A、WP6B、WP6C に新しい放送技術に寄与したいとの意志表明があり、今後の寄与に期待したい。エネルギー消費については欧州からの寄与であるが、社会的な課題であり、我が国としても対応が必要になってくる。

4. その他

4.1. 郵便投票の承認可否（案）について

事務局より、資料 放-41-7「郵便投票の承認可否（案）」に基づき、ITU から照会されている研究課題改訂案 1 件、勧告改訂案 2 件について説明が行われ、意見等あれば 5 月 21 日（金）12 時までにメールで連絡することとなった。

4.2. 今後の検討スケジュールについて

事務局より、資料 放-41-8「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上